

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24年 11 月 19 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473900573		
法人名	サン・クローバー瀬戸田		
事業所名	グループホームももの樹		
所在地	尾道市瀬戸田町名荷522		
自己評価作成日	平成24年10月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=3473900573-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成24年11月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・入居年数と共に高齢化が進行しています。現在の平均要介護度は4になっており、重度化してきております。このような中で、一人ひとりの尊厳を大切にし本人、家族の意向を尊重しながらできるだけ、安心、安楽に過ごしていただけるように支援しています。終末期を迎えられた時は、家族と話し合いの場を持ち、看取り介護を希望された時は、カンファレンスを開催し、家族、主治医、職員が連携し、支援しています。・地域の皆さんとの協力関係は構築されており、夏祭りでは多大な協力を頂き、地域の皆様、入居者、家族、職員が楽しみながら、交流を図っています。・地域密着介護サービス事業者で、定期的に交流会を開催しています。また、ホームでの行事も他事業所に声かけし参加していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

広い敷地で安全面と快適さを考慮した洋風平屋の建物の1ユニットのホームである。入居者の6名が車椅子使用で、半数が全介助を必要とし重度化が進んできている。全職員はチームワークも良く、利用者を尊重し、お互いに支えあう関係を大切に、共に食事作りなど、役割を担う場を作りながら、家庭的で和やかな生活を支援している。外部研修や地域の他事業所との連携による交流も活発に行われており、職員の育成とサービスの向上につながっている。食事は三食とも職員の手作りで利用者の好みを聞いたり、季節の野菜を取り入れた家庭的な味のメニューになっている。地域との連携も図られており、運営推進会議や事業所の夏祭りには多くの方の参加、協力がある。医療面においてもかかりつけ医との継続支援がなされ、定期的な訪問診療や重度化への対応など適切な医療支援が図られ、終末期の看取り介護体制も整えられている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を事務所、休憩室などに掲示して確認し実践に努めています。	理念を基に毎年事業所目標と個人目標を掲げている。職員全体で話し合い共有を図り確認しながら、日々のケアサービスを行っている。職員の意見を基に一昨年理念の見直しを行い、利用者・家族・地域にとってのオンリーワンになることを意識して取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に入り地域の行事に積極的に参加しています。事業所での様子をお知らせする為、毎月「ももの樹便り」を発行し回覧しています。	清掃活動や祭りなど地域行事には、積極的に参加している。近くの公民館で毎月開催の「ふれあいサロン」には利用者と職員で参加している。事業所から「ももの樹便り」を回覧したり、地域の人のボランティアの訪問など、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議では認知症について勉強会を開催することもあります。また地域の方の相談事についても支援しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議での主の議題は、現在の入居者の心身及び認知症の状態、行事報告及び今後の行事予定、地域の行事参加予定、勉強会、意見交換、検討会を行いサービスの向上に努めています。	運営推進会議は地域住民の参加も多数あり、家族や利用者、職員で構成され、事業所の行事や運営状況報告をし、参加者から意見、助言を得る場となっている。毎回参加依頼を行っているが、地域包括支援センター職員は一度だけ、市職員の参加は得られていない。	市の方に運営推進会議への参加依頼文書の送付だけでなく、声かけを工夫して、出席可能な曜日や時間の調整などを検討し、協力が得られるよう、更なる積極的な関わりを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の参加依頼をしています。会議後は議事録を提出しています。疑問に思うことや分からないことは質問し、指導していただいています。	毎回運営推進会議の議事録を送付して、事業所の実践状況を伝えたり、電話での相談、研修会での交流など連携を深める取り組みをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>外部研修に参加しています。毎年事業所内研修を開催し理解しています。玄関は防犯の為、夜間のみ施錠しています。マニュアルを何時でも確認できるように事務所に掲示しています。</p>	<p>身体拘束をしないケアの理解と実践については、マニュアルを作成し、掲示している。また内部研修や外部研修での勉強により、職員の共通認識を図っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>外部研修に参加しています。毎年、事業所内研修を開催し理解しています。マニュアルを事務所に掲示し確認し防止しています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>事業所内研修を毎年開催し、理解し活用できる体制を整えています。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>説明し同意をいただいています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議には入居者、家族も出席していただき、意見、要望を聞いています。介護計画書の説明時も聞くようにしています。</p>	<p>日頃の面会時、毎月の利用料支払い時、運営推進会議、家族親睦会の行事の参加時には話し合いの機会を設けて、十分に意見や要望を聞いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>スタッフ会議では個別に意見、提案などを発言してもらっています。また、日頃より気付いた事は提案してもらい、業務改善に反映させています。</p>	<p>職員間には話し易い雰囲気があり、2ヶ月に1回のスタッフ会議や朝の申し送り時に、自由に意見や提案をしている。また連絡帳などで情報の共有を図り、業務改善につなげている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>随時、悩みや希望を聴き、働きやすい職場環境の整備に努めています。実績や努力などを評価して昇給に努めています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>定期的に事業所内研修を開催しています。外部研修参加の機会も確保しています。研修により、取組みにやりがいが出ています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>因島、瀬戸田地区の8事業所で「シーポート」という会を結成しています。その中で勉強会、食事会、行事ごとの相互訪問、他、連携しながらサービスの向上に努めています。</p>		
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前に何度か面接をし、その中で入居前アセスメントを行い、安心して入居していただけるように努めています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前に何度か面接をし、その中で安心して入居していただけるよう努めています。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入居申し込み時に話を聴き必要である時は他のサービス及び事業者を紹介しています。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>心身の状態によって出来ることを一緒に行っています。例（野菜の皮剥き、洗濯干し、洗濯畳み、食器拭きなど）終わった後は必ず「ありがとうございます」の言葉かけをしています。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時や介護計画書の説明時に状態を伝え、要望をしたり相談をしています。また、毎月、請求書の送付時に個別に状態をお知らせしています。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>個別支援に努めています。職員が個別に付添い支援しています。</p>	<p>秋祭りや公民館での「ふれあいサロン」で馴染みの人に会ったり、二人介助で自宅訪問を支援したり、馴染みのお寺への外出支援など、一人ひとりの大切にしてきた人や場所との関係を継続できるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が間に入り、会話が弾むよう心がけ、うまくコミュニケーションが図れるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後にはアルバムを作成し届けています。また必要である場合は相談援助に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃より状態の把握をし、希望や意向にそえるよう努めています。困難な時は家族に意向を聴いています。	生活歴や家族との話し合い、また日々の寄り添いの中から、本人の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に家族やケアマネに聴き、経過等の把握をし、バックグラウンドを作成。その後アセスメントをしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の関わりの中で、できる事、出来ないことなどの状態把握に努め、 <u>残存能力を引出すよう支援しています。</u>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>アセスメントをケアマネージャーと介護職員が行います。その後、本人の意向、家族の意向を聴き、介護計画書原案を作成後カンファレンスで原案を検討、修正をし実践しています。</p>	<p>センター方式を活用してアセスメントを行っている。本人や家族の意向もふまえ、担当職員や他の職員からの意見も聞き、介護計画原案を作成し、カンファレンスで検討、修正している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>24時間記入の個別記録で支援しています。申し送りは朝、夕、2回行っています。業務前には、連絡帳を読み状況を把握、共有し実践や介護計画書に活かしています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>事業所内で対応できる範囲で支援しています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の行事には積極的に職員の付添にて参加しています。特に毎月参加している地域の「ふれあいいきいきサロン」では地域の馴染みの皆さんと会うことができ参加者の方々は大変喜ばれています。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居後もかかりつけ医が継続できるように支援しています。定期的に主治医の往診があります。また急変時にはかかりつけ医に連絡、相談し、対応していただいています。</p>	<p>馴染みのかかりつけ医との関係を継続できるように支援している。定期的な訪問診療や入院の紹介、緊急時の連絡、対応など医療機関との関係を密にして、適切な医療が受けられるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	法人内の看護師に相談支援しています。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時は介護サマリーを提供し状態を把握していただいています。入院中は面会に行き情報交換しています。退院時はカンファレンス及び入院時サマリーにて状態の把握に努めています。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	入居前に家族の希望を聴くようにしています。終末期には看取り介護についての説明をしています。家族の意向を聴き、カンファレンスを開催。その後、看取り介護計画書を作成、主治医の協力を得ながら連携して支援しています。	入居時に重度化した場合や終末期のあり方について家族と話し合いを行い、事業所の看取り介護の指針を説明し、同意書で確認している。終末期には職員間で情報の共有を図り、家族や医師の協力を得ながら連携して支援に取り組んでいる。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	定期的に事業所内研修を開催しています。事業所内にAEDを設置し、消防の方に指導していただき、実践力を身に付けています。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年2回消防訓練を実施しています。その内1回は消防署に参加していただき、通報訓練、避難訓練、消火訓練の指導をしていただいています。運営推進会議で地域の皆様に災害時の協力をお願いしています。	毎年2回（昼、夜）の消防避難訓練を利用者も参加して実施している。消防署の指導による通報や避難の仕方、消火器の使い方の練習を全職員が実施している。地域の方には運営推進会議や回覧板にてお知らせし、連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	毎年、プライバシー保護、権利擁護、倫理の研修を行っています。その人に合わせできる事を無理のないようにしていただいています。たとえできなくても自尊心の傷つけない声かけをしています。	職員は丁寧な言葉かけを心がけ、一人ひとりを尊重した分かりやすい言葉かけに努めている。研修や職員間での注意喚起などで確認しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	「○○します」ではなく「○○しましょうか」の声かけにより自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	できる限り利用者のペースに合わせた支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	化粧セットを用意しています。利用者の中で化粧が得意な方がおられ、希望者に化粧をされています。身だしなみを整え化粧をすると「いきいき」とされています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	その人の状態により職員と一緒に調理しています。（野菜の皮を剥く方、食器を拭く方、トレイを拭く方 他）食事はすべて職員の手作りで食べたいものを聴き、家庭的な味を心がけています。	利用者の希望を聞いて、職員が順番にメニューを作成し、調理も行っている。食材の準備や食後の片付けなど能力に応じて利用者も一緒に行っている。職員も同じテーブルで、お話ししながらの食事は、家庭的で和やかな雰囲気が感じられる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>状態に応じて普通食、刻み食、ミキサー食、トロミ剤使用しています。毎食、食事摂取量、水分量を記録しています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後とおやつ後口腔ケアを施行しています。特に自分でできない方は職員が誤嚥予防の為、丁寧に口腔ケアを施行しています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>24時間の個別記録及び排泄記録により把握でき、できるだけ失禁が減るように支援しています。</p>	<p>夜間はオムツやパット使用の方も、昼間は失敗がないように排泄記録をチェックして、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援をしている。それによりオムツからリハビリパンツに移行したケースもある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>食事はすべて職員の手作りで毎食、野菜を取り入れています。排便コントロールについては主治医に相談しています。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>個別に入浴介助しています。入浴拒否がある方は時間をずらし再度声かけ、入浴剤を好きな物にする等して工夫して支援しています。</p>	<p>一人ひとりの状態にあわせて、二人介助やリクライニングでシャワー浴など個別の入浴支援をしている。入浴を拒む方には声かけの工夫や入浴剤の活用などで週3回は入浴できるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>利用者の状態に応じてソファーに移乗したり、居室にて休んでもらっています。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>利用者の薬の効能や副作用を受診記録、処方箋により確認し把握して支援しています。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>アセスメントやフェイスシートにより楽しみを持ち生き生きと生活できるように個別に支援しています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>気分転換ができるように外出支援をしています。重度の方で外出が困難な方の場合、家族に希望を聴き、協力を得ながら支援しています。</p>	<p>個々の状態に合わせて個別に声かけをして、ドライブや花見、図書館、近くのお地藏さんへお参りなど、日常的に外に出る機会を増やす取り組みをしている。誕生日には希望により外食の支援や重度の方にも家族の協力を得ながらリクライニング車椅子で二人介助による外出を支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>利用者が金銭の管理はしていませんが、できる方は買い物の際にお金を持っていただき支払っていただいています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望がある時は電話をしてもらっています。また、はがきを書いてもらい住所は職員が書いて支援しています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者と職員と一緒に制作した季節ごとの作品を掲示しています。その中で季節を感じたり、作品の感想を楽しく話されています。また安心、安全に過ごしていただけるように環境整備にも努めています。	ウッドデッキや畳のコーナーのあるリビングは、明るくてゆったりしてくつろげる空間となっている。壁には手作りのカレンダーや季節感のある作品が飾ってあり、家庭的な雰囲気の温かい感じの居場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者の皆さんは各自、落ち着いて過ごせる場所が決まっております安心して過ごせるように配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に使い慣れた物の持ち込みについて話、持参していただいています。馴染みの物を置くことにより安心してすごしていただいています。	家族写真やテレビ、鉢物など本人の好みに合った物が置かれ、整理整頓され、居心地の良さが感じられる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	職員は「ゆっくり、一緒に、楽しく」支援しています。車椅子、歩行器の方も自走しやすいように環境整備に努めています。ベットの位置も安全、安楽に使用できるように検討し設置しています。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームももの樹

作成日 平成25年 1月 11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		運営推進会議の参加者が固定され、いろんな視点から、多様な意見が出にくい。	参加者の多様化をめざす。	市に関しては様々なこと（決まり事だけではなく）でコミュニケーションを積極的に図る。（電話や市役所をた訪ねるなど）。会議の時間、曜日など総合的に考慮しながら決定する。	1年
2		スタッフ個人が新たに気付いた入居者さんの発見をうまく活用しきれていない。	入居者さんの新たな発見を共有し有効に活用する。	新しく気付きや発見をしたとき、すぐにメモできるように専用用紙を作成する。スタッフは気付きや発見について今よりもさらに認識する。	5か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。